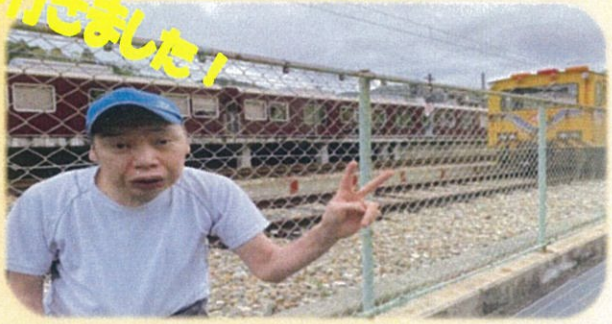
くりのみ広場

くりのみ広場　令和４年夏秋号（Ｎｏ.６０）
発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会　大阪府豊能郡能勢町下田尻２０番地　TEL 072-735-2212　FAX 072-735-2213
発行責任者：大 﨑 年 史

★夏秋号のキラキラ★さん

毎号 元気に輝く利用者を キラキラさんとして 紹介します！
夏秋号は　くりのみ園のキラキラさん です。



index

理事長より　代表理事として常に適切な判断ができるように・・・・ P2
事業部長より　事業部長のちょっと聞いてください・・・・・・・ P3
事業所めぐり　くりのみ園の行事・おおざとの研修の様子です　・・・ P4～5
職員コラム　おおざとの赤いやね職員のコラムです・・・・・・・・ P6～7
新人職員紹介・寄附寄贈の紹介・ひとこと　・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

「代表理事として常に適切な判断ができるように…」

社会福祉法人四幸舎和会
理事長　大﨑　年史

本年６月２日深夜、今中喜明前理事長が逝去され早や３ヶ月半が経ちました。５年前に大腸がんの摘出手術をされ、その後抗がん剤治療を行いながら当法人理事長としての職務を果たされていました。私がくりのみ園に来て 15 年が過ぎましたので、17 年の長きにわたって理事長を務められたことになります。本当に長い間ご苦労さまでした。あらためて、ご冥福をお祈りいたします。

法人としては立ち止まることが許されないので、６月中に理事会、評議員会を開催し代表理事の選任を行いました。利用者の生命と暮らしを守ることは当然ですが、関係法令を遵守し社会福祉法人の運営に係る全責任を負うことが代表理事の仕事です。法人の緊急事態でもあり、重責ですが私が代わりを務めることとなりました。今までは、判断に迷うことがあると今中前理事長にまず相談し、助言等してもらいながら業務執行してきましたが、これからは、振り返ってもおられないので、前だけを向いて進んでいく所存です。また、どのような事態が起こっても、常に適切な判断ができるよう、今まで以上に自分自身を律して励みたいと思います。

さて、コロナ感染第７波が収束してきています（令和４年９月28日現在）。去る８月には府内の多くの入所施設でクラスターが発生しました。感染力が高く「あっ」という間に感染拡大したとのこと。また、職員も感染するので一人、また一人と隔離対象になり、勤務が組めない状況に陥るとのことでした。オミクロン株 Ba.5 は重症化しないと言いますが、それでもクラスターが収束するまでの３～４週間は非常時体制で臨まねばならず、利用者及び施設が受けるダメージは計り知れません。しかしながら、職員一丸となってクラスターを乗り切ったことで、施設がひとつにまとまり、良い経験をしたと前向きに考えておられる施設もあり、頭が下がる思いです。幸い、入所施設であるくりのみ園は、利用者の感染はなく、クラスター発生もない状況です。ひとえに、感染予防の基本（マスク、手洗い、消毒、換気等）をスタッフが意識して徹底してきた結果であると感謝しています。５類への引き下げを早期に望みますが、引き続き、法人全事業所の感染予防に努めて参ります。

前（故：今中喜明）
後（大﨑年史）

事業部長のちょっと聞いてください！　～会議の場も学び・・・？～

事業部長　大嶋　基

唐突ですが、皆さん、仲のいい人と話をするのは緊張しませんよね？

大嶋さん急に何を言い出すんですか当たり前ですよ！なんて言わず、ちょっと聞いてください(笑)。

では、皆さん、よく顔を合わせている職場の皆さんと仲悪くないですよね。じゃあ、話も緊張しませんよね？

そうなんです。仲のいい友人同士や職場でも仲のいいスタッフ同士であれば、感想・意見は言うけど、例えば会議や先生と言われる方がいる前とかでは意見は出しにくいといったことありますよね。

なので、今日は自分の考えを言う（発言する）ということについてちょっと聞いてください(笑)

なぜ、自分の考えを言えるときと言えないときがあるのでしょう。考えたことありませんか。

言いやすい雰囲気が大事だとかよく言いますよね。確かにそうだと思うんですが、もっと、何か、具体的な言葉にならないかなと思って・・・

子どものころ思い出してみてください。自分が発言する場面って正解を求められていたと思いません？先生からよくできましたぁ！をもらうために・・・そんな場面を（大人になっていく過程で）経験している人の多くは正解を言わなくてはいけないという学びをしているんじゃないかと思うんですね。これは、考えを言うとき、心の中（頭の中）では（これであってる？間違いたくないなあ。言ったらみんなはどう思う？）という不安が起こってしまうようになってくる。簡単に言うと正解を言わなくては！ということが起こっているのではと思うんです。でも、よくよく考えてみると、自分の考えを言うこと自体には正解とか不正解なんてあります？

もちろん、学びをしてきた中で問われたことに正解・不正解はあるかもしれませんが、そのことも含めて、自分が発言して恥ずかしかったとか失敗した時の学びをしていないんですね。その場の誰に助けてもらおうとか。

聞く側もそうですね。正解を言うという学びをしているから正解でない発言があれば、正解や違う意見を言わなければならなかったり・・・助けてあげるという行動や発言ができなかったり、こんなことが繰り返されていると発言がない会議が生まれるような気がしているんです（あくまでも個人的な見解です(笑)）

話を聞く側は「間違っても大丈夫！失敗しても大丈夫！」という安心をつくれるように会議の場で練習する。学ぶ。

発言する側は、自分の考えを言うことに間違いはない。発言して間違いや失敗したらどう助けてもらうか学ぶ！

改めて、こんなところからやってみるのはどうでしょうかと思うのですが、皆さんどう思われますか？

事業所めぐり

くりのみ園

ハート棟
そうめん流し

クローバー棟
BBQ

おおざとの赤いやね

公開講座

お昼ごはん
作ってます！

能勢くりのみホーム

いただきます！

職員コラム

より良い支援とは…

おおざとの赤いやね　支援員　酒井洸輔

“より良い支援をするには気持ちだけではなく、専門的なスキルが重要“ 入職から 2 年目の折り返しを迎えようとしている今、そのように思うようになりました。

入職前は福祉とは異なる分野を学んでいた為、知識ゼロからのスタート。『気持ちがあれば支援できる』と思っていました。しかし、『支援員というのは高度な専門職なんだ!気持ち、資質も大切だけど、知識や技術も伴って初めて良い支援、サービスを提供できるものなのだ』と思うようになりました。

自分が良かれと思って利用者に声かけしたことが、逆に利用者の混乱を招いてしまったり、利用者の特性を理解しないまま間違った解釈・支援をしてしまい、誤学習をさせてしまったり、行動障がいを誘発させてしまうなどがあり、支援員にとって専門知識がいかに重要な要素なのか知る事が出来ました。

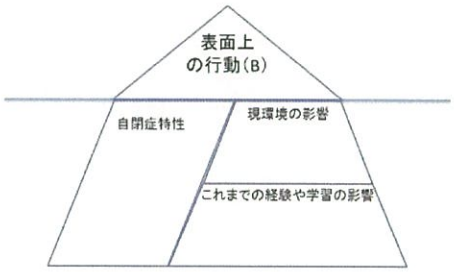
さて、ゼロからスタートとなった 2 年前から、自分にとってあらゆることが新鮮でたくさんの学びがあり、また同時についていけるのだろうかと不安に感じることもありました。2 年間少しずつ実践を積み重ねて学んできましたが、今年度の目標として標準的な評価ツール PEP-3（自閉児・発達障害児教育診断検査）の実践と、そこから利用者理解を深めることを掲げ、進めてきました。

PEP3は、検査を通じて認知・表出言語・理解言語・微細運動・粗大運動など複数の機能についての発達評価や行動特性の評価が出来るものです。初めての検査ということで非常に緊張と不安を感じながらマニュアルを片手にぎこちない感じではありましたが、一つ一つの検査を実施していきました。実施している中で、今まで見えていなかったことがたくさんあったのだと気づきました。自分が知っていると思っていた以上に強みや弱み、「こんなことを知っているんだ。こんなこともできるんだ」と多くの気づきや発見がありました。

検査の中でとても印象に残ったのが、言語の項目でした。自分は勝手に「この利用者は、自分から多くのことを伝えることが出来るから言語・文字を理解することができる」と思いこんでいたと反省しました。検査を通じて言語・文字を理解することが苦手なことが分かったのです。この結果は、逆に「話せないから言葉を理解してないと安易に判断してはいけない」とも感じた結果でした。

もう一つ今年度学んでいることがあり、紹介したいと思います。支援する中で日々感じることは、「なぜこのような行動をするのだろう」「あの行動は他人にとって良くないと感じるな。何とかならないかな」と思うことがあります。言葉で伝えることが難しい利用者の行動を理解することは非常に難しいと感じています。そこで、月に２回氷山モデルを活用して利用者理解を深める勉強会を実施しています。

氷山モデル（Schopler, 1995）



そこで利用者の気になる行動をピックアップし、皆で関連している障害特性や関連している環境要素を書き出しています。そして、障害特性と環境要素のミスマッチを導き出し、そこから適切な支援を皆で考えています。このような機会をもつことで本当に困っているのは利用者自身であることに気づき、利用者理解をより深めることが出来ています。また、皆で考えることで、一人では気づけなかった視点や方略を知る事ができ、とても貴重な時間になっています。

PEP-3の実践や氷山モデルでの学びの中で、間違った理解や支援者自身の思い込みから良かれと思う支援が、利用者にとっては負担になってしまうことを知りました。利用者のことを正しく理解し、利用者が安心して生活を送れるような支援を考えることが出来る支援者を目指し、専門的な知識とスキルを学び続けたいと思います。

スタッフのコメント

PEP-３の評価では、自分でテキストを読み込んで、自ら時間を調整して取り組む姿に酒井さんの支援者としての大切な姿勢を感じることができました。専門職として一つ一つの支援について熟考を重ね、利用者に寄り添い進めていく姿に成長を感じる今日この頃です。

先日受講した小田桐先生の講座では、『支援は、価値・知識・技術の総称』というお話がありました。木にたとえて根は価値（支援者としての理念、倫理）、幹は知識（正しい支援を提供するための知識）、そして枝・葉は技術（目指すべき支援が機能するためのスキル）と説明されていました。入職して２年目はまだまた多くの事を吸収できる時期だと思います。今後も多くの学びを深めて大きな木になることを楽しみにしています。

おおざとの赤いやね　管理者　豊川郁子

新人職員紹介

くりのみ園
事務員　長谷川雄一

6月からお世話になっている長谷川です。まだまだ分からない事が多く、いつも周りの皆様に助けてもらってばかりです。いつか仕事で恩返しできるよう頑張ります。

くりのみ園
事務員　田中千秋

6月から入職しました田中千秋です。支援員さんたちがより良い支援を行えるよう、日々のコミュニケーションを大切にしていきたいです！よろしくお願いします。

寄附・寄贈のご紹介

匿名希望	米 10kg
フェリコット・クラフト・ジャパン 様	ブランマ 154個
根布谷 様	マスク
藤田 芳津 様	米 25kg
佐向 紀子 様	10,000円
奥井医院 様	ダイキン 空気清浄機 10台

令和4年9月末現在

ひ・と・こ・と

秋の気配を感じるようになり、朝夕はとっても過ごしやすくなってまいりました。
寒がりのわたくしには嫌な季節がやってこようとしております。
さて、わたくしは8月にかたやまの赤いやねからグループホームに異動して2カ月が経過しました。今までも常々考えておりましたが、また違った角度で、「利用者の方の生活の資」を高めていくってどういうことなんやろか?ということに思いを巡らせる日々でございます。私たちが日々の生活の中で当たり前にしていること、例えば食べたいものを選ぶとか、コンビニを利用するとか、そういったことが当たり前に利用者の方ができるように、支援や環境を整えていきたいなぁなんてことに思いを馳せる、秋の夜長でございます。

能勢くりのみホーム・くりのみホーム サービス管理責任者 稲田昌平